

# 班会議及びワークショップ議事録

## 第1回分担研究者打合わせ会

57年7月20日 於：私学会館

### 1. 厚生省母子衛生課 松橋技官

- SIDSの概念確立
- 原因の総合的究明
- 診断基準・予防指針の作製
- near-missの定義

上記四項目について中心的に研究をしてもらいたい。

### 2. 班長 馬場教授

全体計画の説明

研究費配分計画

全体予算2,500万円位なので少くとも各班200万円づつ位は配分出来る。

研究費交付は11月頃の予定。

### 3. 分担研究者より研究計画説明

56年度の研究計画について各分担研究者より説明。

### 4. 今後の計画

第2回分担研究者会議について

研究協力者迄含めて行う→班総会とする(第1回班総会)。

56年10月6日に開催。

第2回班総会開催について

57年2月25日に行う。

## 第1回班総会

56年10月6日 1:30PMより 於：私学会館

### 1. 厚生省母子衛生課 松橋技官

- 概念の確立
- SIDSそのものの研究
- 診断基準・予防指針の作製
- near missの定義

以上について研究してもらいたい。

## 2. 班長 馬場教授

研究班の目的

班の構成についての説明

## 3. 各分担研究者

今年度及び次年度の研究計画について説明

## 4. 定義と分類についての検討

分担研究者、研究協力者より種々の意見が出た結果次の様に決定

**定義** (定義は2～3次年度で訂正することもある)

乳幼児突然死症候群 (sudden infant death syndrome, SIDS)

- ① それまでの健康状態および既往歴から、その死亡が予測出来なかった乳幼児に、突然の死をもたらした症候群 (広義)
- ② それまでの健康状態および既往歴からは、全く予測出来ずしかも剖検によってもその原因が不詳である、乳幼児に突然の死をもたらした症候群 (狭義)

不全型乳幼児突然死症候群 (abortive SIDS)

それまでの健康状態および既往歴から、その発生が予測出来なかった乳幼児が、突然の死亡をもたらし得る様な徐脈、不整脈、無呼吸、チアノーゼなどの状態で発見され、死に至らなかった症例。

- 1回のepisodeでもabortive SIDSとする。

### 広義のSIDSの分類

#### (1) 死因より

- |           |         |
|-----------|---------|
| ① 狭義のSIDS | ⑥ 内分泌疾患 |
| ② 心疾患     | ⑦ 代謝性疾患 |
| ③ 呼吸器疾患   | ⑧ 感染症   |
| ④ 神経系疾患   | ⑨ 不詳    |
| ⑤ 窒息      | ⑩ その他   |

#### (2) 既往歴より

- ① 全く死亡の予測される疾患の既往歴のないもの。
- ② 疾患の既往歴があるが、その疾患からは、突然の死亡は予想されないもの。

### ★ abortive SIDS について

near miss case は near miss という言葉が誤解を生ずる恐れがあるとして abortive と

することに決定。日本語では「不全型」という言葉を用いる。

但し欧文で発表する時にはnear miss case, near miss SIDS , near miss baby という言葉を用いても良い。

## 5. 年 令

中核を「2週以後2年未満」として検討する。

この年齢を超えている時は年齢を名記して発表することが望ましい。

## 第2回班総会

昭和57年2月25日 於：私学会館

### 1. 厚生省母子衛生課 谷課長および松橋技官より

- 57年度の計画書を4月10日迄提出。
- その他本研究班に対する希望が述べられた。

### 2. 研究発表

- (1)最近の知見 …… (総合班) 坂上正道
- (2)疫学的研究 …… (疫学班) 山下文雄 ほか
- (3)発生頻度と診断 …… (疫学班) 渡辺富雄 ほか
- (4)病理学的及び生化学的研究 …… (病理) 吉村公一 ほか
- (5)発生機序の呼吸生理面からの検討 …… (呼吸) 雫本忠市 ほか
- (6)循環動態面の研究 …… (循環) 高尾篤良
- (7)内分泌代謝病態に関する研究 …… (内分泌代謝) 諏訪城三
- (8)神経学的研究 …… (神経) 大田原俊輔
- (9)周産期的要因の検討 …… (周産期) 室岡一 ほか

### 3. 死亡例の検討

死亡例につき検討し、決の事が話題となった。

- (1)後日のために生標本を採っておくことがよいのではないか。
- (2)剖検にてミルクが気道内に見られた時の意義。

### 4. 診断基準について

abortive SIDSなどを十分検討して、来年度に暫定診断基準を作る。

### 5. 用語について

前回「不全型乳幼児突然死」とし邦訳したabortive SIDSは「未然型」SIDSという用語が適当ではないかとの提案あり。

討義の結果提案通りに abortive SIDS を「未然型乳幼児突然死症候群」と日本語訳をすることに決定。

## 6. 次年度計画

ワークショップを次年度早期に行いたい。

厚生省 SIDS 研究班事務局  
日本大学医学部小児科学教室  
東京都板橋区大谷口上町30番  
電話 (972) 8111  
係：阿部忠良・内海康文